

令和6年度 流山市在宅医療介護連携推進事業実績報告

位置付け	高齢者支援計画 R6-R8					
対象	介護保険：要介護・要支援認定者、総合事業担当者、障害者					
理念	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心・安全に自分らしく生活ができる。希望すれば、最期は自宅で亡くなる事ができる					
目標	在宅療養者を人生の最期まで支える24時間365日緊急対応可能な医療と介護の連携システムの構築を図る					
中期目標 R3-R5	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域全体で在宅療養を支える体制を組めるようにする 2 在宅・施設での看取りを増やす 3 病院・施設・在宅の連携を深める 	<table border="1"> <tr> <td>短期目標</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1-① 医療・介護の専門職の知識・技術が向上する[※]達成 1-② 医療・介護の専門職がスムーズに情報共有できる[※]一部達成 1-③ 医療・介護の専門職が支援に対する不安を払拭する[※]一部達成 2-① 市民が在宅療養について理解する[※]一部達成 3-① 切れ目のない円滑な入退院支援の体制を構築する[※]一部達成 </td> <td>プロフィール</td> <td> ○認知症（連携不可欠な困難事例含む） ○入退院時の連携 ※これまでの事業においてプロフィール設定を取り入れていた実績がないため、今後取り扱いないとする </td> </tr> </table>	短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 医療・介護の専門職の知識・技術が向上する[※]達成 1-② 医療・介護の専門職がスムーズに情報共有できる[※]一部達成 1-③ 医療・介護の専門職が支援に対する不安を払拭する[※]一部達成 2-① 市民が在宅療養について理解する[※]一部達成 3-① 切れ目のない円滑な入退院支援の体制を構築する[※]一部達成 	プロフィール	○認知症（連携不可欠な困難事例含む） ○入退院時の連携 ※これまでの事業においてプロフィール設定を取り入れていた実績がないため、今後取り扱いないとする
短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 医療・介護の専門職の知識・技術が向上する[※]達成 1-② 医療・介護の専門職がスムーズに情報共有できる[※]一部達成 1-③ 医療・介護の専門職が支援に対する不安を払拭する[※]一部達成 2-① 市民が在宅療養について理解する[※]一部達成 3-① 切れ目のない円滑な入退院支援の体制を構築する[※]一部達成 	プロフィール	○認知症（連携不可欠な困難事例含む） ○入退院時の連携 ※これまでの事業においてプロフィール設定を取り入れていた実績がないため、今後取り扱いないとする			
場面	担当	短期目標	令和6年度実績	課題（○）と今後の検討事項（※）		
共通	流山市	1-②	<ul style="list-style-type: none"> ・GISを活用した介護保険事業者情報を更新する。 ・在宅療養診療所等の実態調査を踏まえ、在宅医療に関する医療機関情報をGISで掲載する。 ・「医療情報ネット（ナビイ）」を案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GISを活用した介護保険事業者情報を更新した。 ○在宅療養診療所等の実態調査を踏まえ、在宅医療に関する医療機関情報をGISで掲載した。 ○「医療情報ネット（ナビイ）」を継続し、案内している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が在宅療養や、在宅療養の提供体制などについて知らない。 ○医療情報ネット（ナビイ）、市のホームページなど在宅療養に関する情報はあっても、集約されていない、分かりにくいなどの要因から欲しい情報にアクセスしにくく、情報を得にくい。 	
	全体会・流山市		<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも知りたい情報にアクセスできるよう、ページを再編する。 ・在宅医療推進のため、医師会と連携し、在宅療養支援診療所等の情報の掲載やさらなる取り組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○欲しい情報にすぐにアクセスできるようなホームページを再編した。 ○在宅医療推進のため、流山市在宅医療・介護関係者のために在宅医療提供医療機関パンフレットを作成し、運用に向け準備中。 	<ul style="list-style-type: none"> ※市民の在宅療養・介護のアクセス向上を目指し、分かりやすくホームページを再編したが、さらに見やすく分かりやすいホームページを目指し、掲載内容など随時見直ししていく。 	
	流山市	3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5月調査実施し、第一回連携会議にて進捗報告、公表内容及び方法の検討。 ・6月 調査結果集計と課題の把握。 ・7月 公表準備、第二回連携会議で結果報告。 ・8月 医療介護関係者、市民へ公表。 ・在宅療養支援診療所以外の訪問診療、往診を行っている医療機関を対象にアンケート調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年 3月～5月 アンケート調査及び聞き取り調査の実施 令和6年 11月～令和7年1月 追加調査の実施及び集計 令和7年 2月 公表準備（医療介護関係者向けのパンフレット及び市民向けにホームページの掲載） 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅療養を提供している医療機関の実態が見えにくい及び、在宅・病院関係者との円滑な連携が十分でない →在宅・病院関係者との円滑な連携のためのツールの一つとして、医療・介護関係者向けのパンフレットの活用を推進する。 	
日常	全体会・流山市	1-②	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の機能に加え、居宅・サービス事業所連携機能（ケアプランデータ連携）など情報共有システム機能を拡充する。 クラウドサービスを介してのデータ連携が可能となり、無料で利用できる。 ・事業者BCPに基づいた災害時の情報共有として、IDの付与を事業所単位とし、市内全介護保険事業所に参加の義務付けを行う。 端末への電子証明書のインストールは不要とし、どの端末からもログイン可能とするため、個人情報の使用は不可。 この運用開始後は、研修に関すること、介護保険最新情報などの情報はすべてシステム内での通知とする。（7月に運用に関する周知を図り、2025年1月以降、運用開始予定） ・研修会の内容、方法について必要時全体会等で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状の情報共有システムの機能を拡充し、居宅・サービス事業所連携機能（ケアプランデータ連携）に関する研修会をZOOMにて開催した。（令和6年10月） 参加者：居宅介護支援事業所 50名程度（同一端末にて複数人視聴あり詳細把握できず） ○地域型BCPの研修会を開催し、全事業所にID付与が完了後、研修に関すること、介護保険最新情報などの情報はすべてシステム内での通知となる予定。 ○情報共有システムの利用手続きを簡略化し、利用しやすい環境を整備していく。 ○情報共有システム研修会を開催した。（令和7年2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有システムで連携を図ろうとしても相手事業所が登録していない、事業所のシステムと連動しておらず入力作業が手間取る、利用している医療機関や事業所が分からない。 ※情報共有システムの手続きの簡略化のため、マニュアルや様式の見直しを行い、使用実態を把握していく。 ※情報共有システム利用による業務の効率化や円滑な多職種連携が図れることを普及啓発していく。 ※居宅・サービス事業所連携機能の拡充には、居宅介護支援事業所だけでなく介護サービス事業所の導入の意思が重要であり、今後連携をしたい相手に声掛けし、一緒にシステムを導入するよう周知していく。 	
		1-② 3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぐ会に参加できない方も、自分の都合に合わせて合わせのの様子を視聴できるように、情報共有システム、ホームページ等を活用し、研修内容を掲載する。 ・つむぐ会だよりにホームページのリンク先、QRコードを掲載し、研修内容にアクセスしやすい工夫をする。 ・在宅医療介護連携推進事業で課題に挙がっているテーマを取り上げ、現場の専門職の生の声を聞く場として活用する。 ・終了後のアンケート項目に「気負わず相談できるようになりましたか」の項目を追加し、現状把握や課題分析を行い、質の高いつむぐ会の開催を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有 ・つむぐ会の開催内容や連携会議のまとめをホームページに掲載した。 ・つむぐ会だよりにQRコードを掲載し、欲しい情報にすぐにアクセスできるような工夫を行った。 ・在宅医療介護連携会議にて問題提起された内容の実態や現場感を知るために介護と医療をつむぐ会にて、課題解決に向けて情報交換を行うなど、双方のやり取りを行い、課題解決に努めた。 （令和6年第3回 高齢者を取り巻く環境/第4回 在宅・医療・消防間の円滑な連携とは） ・つむぐ会アンケート項目「気負わずに相談できるようになりましたか」の項目では、連携を客観的に把握する指標となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つむぐ会の参加者が固定化している、新規参加につながらない、医療職の参加が少ない。 ※実務の場において気負わずに連携できること、各職域の立場や視点など職域理解し、情報共有や多職種連携が図れることができるような開催内容を検討する。 ※開催内容では、4つの場面を意識し、中期目標の実現のためのテーマ設定を意識していく。 ※現場でのリアルな課題などを取り上げ、関係者間で課題をもむなど双方のやり取りを今後も継続していく。 	
	1-② 3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上に在宅医療実施の医療機関一覧等の掲載を検討する。 ・在宅療養支援診療所の実態調査の結果を関係者に提供することで、「流山市医療・介護連携に関する連絡可能時間一覧表（ケアマネタイム）」については取り扱い終了とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○欲しい情報にアクセスしやすく、見やすいホームページを目指し、再編を実施した。 ○流山市在宅医療関係者のための在宅医療提供医療機関パンフレットを作成し、今後公開予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院・在宅関係者間の情報共有が不十分な場合がある。 ※流山市在宅医療関係者のための在宅医療提供医療機関パンフレットについて周知し、内容について適宜見直しを行う。 		
研修・啓発 市民啓発班 または 流山市	2-①	<ul style="list-style-type: none"> 市民公開講座（10月または11月開催予定） ・テーマ・・・「自分らしい最期を迎える」ための備え、ACPの普及啓発（案） ・開催方法・・・参加型、オンデマンド配信などを検討する。 ・開催内容・・・市民のニーズを吸い上げ反映した内容にする。 ・周知方法・・・オンデマンド配信等によりいつでも見れるような工夫、LINEやメール、QRコードの活用などアクセスしやすい工夫を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民公開講座：令和6年10月12日（土）開催 ・テーマ：「写真家が伝えたい在宅看取りの話～若いうちから考えて欲しい、最期まで自分らしく過ごすには」 ・開催方法：参加型/録画オンデマンド配信 ・参加人数：参加型43名、オンデマンド配信46名 ・周知方法：LINE、メールなどで周知を図った。 ・申込方法：電話、FAX、メール、QRコード、千葉県電子申請などを用いて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民は在宅療養や人生会議（ACP）について知らない、イメージがわかない、自分事に考えられない、考える機会がない。 ○介護支援専門員はじめ在宅介護関係者にとって、人生会議（ACP）を取り入れることに支障がある場合が多い。 ※市民公開講座のテーマ、開催方法、周知方法など見直し、多くの市民が、在宅療養や人生会議（ACP）について、在宅介護関係者が人生会議（ACP）について知ることができるような内容を検討していく。 ※人生会議を自分事として考えることができる内容での情報紙の作成など検討していく。 		
		<ul style="list-style-type: none"> おうち療養情報紙（3月発行予定）：テーマ、内容の検討 ・市民公開講座の概要 ・ACP普及啓発のため、「もしも」の時の医療・ケアについてのリーフレットに対する出前講座での取り組みの様子や市民公開講座の状況など掲載内容を検討する。 ・在宅看取りの事例紹介、地域密着型介護サービスの紹介等。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おうち療養情報紙を発行した。 おもて：市民公開講座の紹介、人生会議の内容。もしバナゲームについての掲載。 ※：事例をもとに在宅療養と人生会議の周知を図る記事、相談先の掲載。 発行数：52000部、新聞折込 46600部。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 依頼に基づき出前講座を開催する。 ・ACP普及啓発のため「もしも」のときの医療・ケアについて講座で実際に一緒に記載する、状況に応じてもしバナゲームの実施も含め、理解を促すための講座内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「もしも」の時のこと、自分らしい生き方を考える」をテーマに、もしバナゲームと「もしも」のときの医療・ケアについて考えるカードを用いて、人生会議（ACP）についての出前講座を開催した。 計5回実施 参加者 合計129名 			
流山市	1-③	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療介護連携の相談窓口の周知を行う。 ・認知症初期集中支援チームの随時や検討事項等を連携会議内で随時共有し、頂いた意見や提案などを今後の取り組みに生かす。 ・医療・介護の現場における利用者やその家族からのハラスメントに対する抑止力の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療介護連携の相談：2件 ○認知症初期集中支援チーム：活動実績3件、3月下旬検討部会開催予定。 ○ハラスメント防止啓発のためのリーフレット作成（8月）、運用の実態把握のため、2月末アンケート調査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療・介護の現場で、職員に対する利用者やその家族からのハラスメントの相談が増加している。 ※介護ハラスメント防止啓発リーフレットを作成し、活用の実態把握のためアンケートを実施したため、今後アンケート結果の公表と今後の改善策など検討していく。 		
入退院	多職種連携・体制構築部会 病診連携推進班 全体会・流山市	3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に流山市医師会の理事の先生方に、「流山版千葉県地域生活連携シート」の目的や活用方法につき説明済み。 その後、流山市内医療機関・全介護事業所に対し、試験的活用について周知する。6か月間の試験活用ののち、アンケートを実施し、アンケート結果の意見や改善すべき点を吸い上げ、修正後、本格的運用とする。 ・病院相談員連絡会3回/年に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○流山版千葉県地域生活連携シートの試験運用（5月）に開始し、半年経過したため、使用実態把握目的でアンケート調査実施（12月）、アンケート結果について、第4回在宅医療介護連携会議にて報告した。 ○病院相談員連絡会に3回/年参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○入退院後の状態変化の情報が見えにくく、継続的なケアが提供できる体制が不足している。 ・流山版千葉県地域生活連携シートが関係者間で必要とする情報が得られるツールとして活用されていない。 ・タイムリーに情報のやり取りがなされていない。 ※流山版千葉県地域生活連携シートの実態についてアンケートから把握できたため、今後のシートの活用や在り方等について検討していく。 	
急変時		<ul style="list-style-type: none"> ・救急情報カードの年1回の定期更新とさらなる普及と周知を図る。 ・在宅療養高齢者や家族等に対し、急変時の対応について関係者と共に考えてもらう取り組みについて検討する。 ・医療・介護・消防（救急）間での情報交換会を開催する。（テーマ案：ACPの視点での取り組み） ・市民公開講座や出前講座、おうち療養情報紙等を活用し、市民に対しACP普及のための取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護と医療をつむぐ会の中で、在宅関係者に救急情報カードの定期更新の呼びかけを行った。 ○医療・介護・消防（救急）間での情報交換会開催（第4回介護と医療をつむぐ会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○急変時の連携において病院・在宅・救急・施設において円滑な連携がまだ十分とは言えない。 ※今後も急変時の対応の共通理解を図る機会を設けたり、救急情報カードのさらなる普及などを行っていく。 		
看取り	研修・啓発部会 専門職研修班	1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看取りにおける医療・介護の連携体制構築推進を目的とし、在宅療養・看取り推進のための症例検討会を市内4圏域で開催する。 ・看取り支援やACPに関する専門職向けの研修を開催する。（VR、ZOOMなど開催方法の検討） ・在宅療養支援診療所の実態調査の結果公表に合わせ、在宅看取りに関する内容も合わせて公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅療養・看取り推進のための症例検討会を4圏域にて開催 令和6年9月11日 中部圏域 参加者23名 令和6年10月9日 北部圏域 参加者21名 令和7年1月31日 南部圏域 参加者12名 令和7年2月10日 東部圏域 参加者 名 ○高齢者住まい看取りケア研修会 令和6年7月22日 参加者26名 ○在宅医療提供医療機関の実態把握調査を実施し、結果報告を行った。 ○流山市在宅医療・介護関係者のための在宅医療提供医療機関パンフレットを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域ごとの看取り症例検討会の開催による、気軽に連携できるチーム作りがまだ十分とは言えない。 ○看取り支援の経験が少ない職員が、看取りに対し不安や戸惑いを感じている。 ※今後も症例検討会を継続して開催し、圏域ごとのチーム作りを促していく。 	
その他		流山市	広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携会議への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東葛5市会議はオンラインで開催され、2回参加した（7月/1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ※近隣市の取組や視点を今後の取組に活かす。

※1 在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.3

※場面…4つの場面 日常：日常の療養支援 入退院：入退院支援 急変時：急変時の対応 看取り：看取り